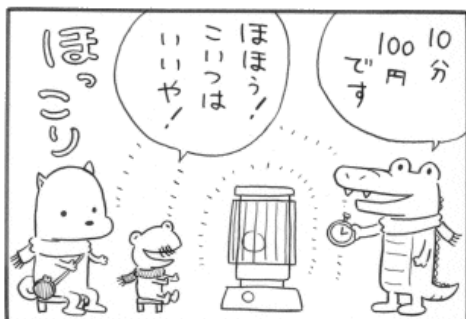


3 R 瓦版 (1 月号)

負けるな!
エコおバくん
イ作: フジコイトウ



© 2015 フジコ イトウ All Rights Reserved.

環境経営の時代

「めっきり寒くなりましたね」。弊社は＜機械工具商社＞と呼ばれる業界に属する企業です。その応接の一室で、挨拶に来られた某問屋の営業マンがこう言われました。「我が社は季節商品をたくさん取り扱っています。さしずめ今はストーブがやはり出ますね」。同社にすれば、弊社はルート顧客の 1 つ。寒い時はストーブ、暑い時は扇風機やスポットクーラーが、特に中小工場の現場では季節の変化で、急に発注になることがあるので、そんな注文はうちにと仰っているのです。

「社長はもっと在庫を増やして、いくら注文があっても即納できるようにせよと言うのですよ。商機を逃すなというわけです」。同社のビジネスモデルは業界の中でも大変な成功事例で、他の追随を許さない完全に差別化されたものです。機会損失にならないよう予想の精度を上げて、もっと大量に在庫し、もっとコストを下げ、もっと一極集中で買ってもらえる体制を築く。この企業が伸びていることで、コストが安く納期が短いことを優先される顧客が多いことがわかります。

弊社は＜ものづくりの課題解決業＞を目指し、2008 年には環境商品を新たな主力取扱商品軸に加えることで、京都オスカー賞を受賞しました。しかし実際の所、本当の意味で顧客が地球環境を意識して、環境負荷の少ない商品を選択するようになったのでしょうか。そこはやはりコストの問題に行きつくというのが実感です。ただここ数年、場当たり的ではなく全体的に考えた方が、結局長期的にはコストダウンになると理解され、提案を求める顧客が増えているのも確かです。弊社が＜課題解決業＞を名乗るのであれば、寒いから即ストーブではなく、現場の作業環境の何が問題なのかを本質的に考えることに、課題を設定しなければなりません。

私が考えるのは、その仕事ならではの取り組みです。弊社は環境商品の提案だけでなく、使用済み切削工具のリサイクル回収や、その回収資金の一部も使った京都モデルフォレスト活動を実践しています。また社員の意識向上のため、社員が講師になって行なう社内エコフォーラムや、インターンシップを活用した環境報告書の実制作、2015 年からは京都市生物多様性プランに基づき、絶滅が危惧される双葉葵と藤袴の育成にも取り組んでいます。以後弊社は 09 年京都環境賞企業賞、10 年京都環境賞レポート賞、同年京都府環境トップランナー表彰、11 年京都府知恵の経営認証、14 年経営者環境力大賞を受賞しました。環境経営が本格的に必要な時代になってきたと感じています。

三共精機株式会社 代表取締役社長 石川 武

RepairFactory (株)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254